

碓日嶺鐵道碑

碓日嶺鐵道碑
陸軍大將從二位勲一等伯爵山縣有朋篆額

碓日嶺聳峙乎信濃上野之界奧羽山脈蜿蜒延乎西南爲全邦脊梁至信濃層疊回
合極其高峻碓日在其東境故阻隘險阨冠于五畿八道焉明治以還汽車鐵道之利
大開其自東京徑上野信濃達越後直江津者碓日嶺橫絕當衝橫川輕井澤間阻隔
不通數里鐵道廳屢遣技師測地勢不能施工而罷至二十二年測之得三道焉曰入
山曰中尾山曰和見嶺入山工費少而地勢峻和見工費鉅而地勢夷中尾地勢工費
俱居二者之中而路程尤近因更精覈審測較其利害得失遂定爲中尾橫川至輕井
澤長七哩中央曰熊平置停車場以二十四年六月起功至明年十二月而竣隧道凡
二十六其長合一萬四千六百四十四呎餘哩皆英國里法哩當我十四町四十五
間餘呎曲一尺餘橋十八架碓日者最鉅有三橋柱疊甄作之形如斗拱相距各六十
呎橋上至川底高百十呎長虹一帶翼然曳影乎碧流巉巖之上洵偉觀也二十六年
一月二十二日始試通車用阿武止氏機關車阿武止獨逸人嘗開鐵道於獨國波蘭
山地勢峻急因創製此距今僅八九年海外諸邦其用未廣云工費凡二百萬技師本
間英一郎董役技師吉川三次郎渡邊信四郎分督其工技手井上清介佐藤古三郎
林通友等助之我邦設鐵道於峻阪是爲嚆矢焉嗚呼碓日嶺奇險天造而爲坦途天
下之阻莫所往而不可鑿開也頃者輕井澤人佐藤萬平小川勇二等將勒其偉功以
傳不朽介川上陸軍中將詣予請文予善此工事之爲全國標準而嘉惠斯民尤大也
不敢辭係之以辭曰

思慕吾孀兮瞻望三歎昔人何在兮遺蹟永傳重險依舊兮攢峯刺天行旅側足兮徑
危崖懸維關維啟兮如砥如矢往來源源兮變遐爲邇武尊之武兮綏服夷鄙開物通
利兮百世媲美

明治廿六年四月

從四位勲四等文學博士重野安繹撰

從五位長苳書

廣羣鶴刻

碓日嶺 鐵道碑の私的解釈 (MS読み)

漢文ルールとの相違点

- 1 行の配列順…一行目―訓読文・二行目―書き下し文・三行目―解説 (現代語訳を省略)
- 2 現代仮名遣いを使用。

次ページより

碓日嶺鐵道碑 陸軍大將從二位勳一等伯爵 山縣有朋 篆額

碓日の嶺鐵道の碑 陸軍大將從二位勳一等伯爵 山縣有朋 篆額

碓日嶺 碓氷峠の古語。篆額 碑文の上に書かれた題字。

碓日嶺、聳二一峙 乎信濃上野之界。

碓日の嶺、信濃と上野の界に聳峙す。

聳峙 高くそびえたつこと。

奥羽山脈 蜿蜒延乎西南、爲二全邦脊 梁一至二信濃、

奥羽山脈 蜿蜒と西南に延び、全邦の脊梁と為りて信濃に至り、

蜿蜒 延々。全邦 全国。

層疊 回合 極二其高峻。

層疊 回合して その高峻を極む。

層疊 回合 幾重にも重なり、めぐりあう (邂逅する) こと。

碓日 在二其東境、故阻隘險阨 冠二于五畿八道一焉。

碓日はその東境にありて、ゆえに阻隘險阨五畿八道に冠をなす。

阻隘險阨 狭く阻み険しいさま、冠 位が高い、五畿八道 律令制の行政区画で全国を指す。

明治以還汽車鐵道之利大開。

明治以還汽車鐵道の利大にして開く。
特になし。

其自東京一徑上野信濃一達越後直江津一者、碓日嶺横絶當衝、

それ東京より上野信濃一達越後直江津一者、碓日嶺横絶の衝に当たり、
横絶横断。衝要衝。

横川輕井澤間阻隔不通數里。

横川輕井澤間は阻隔にして數里通らず。
特になし。

鐵道廳屢遣技師、測地勢不能施工。

鐵道庁屢技師を遣わし、地勢測るも施工能ず。
特になし。

* 而罷至二十二年、測之得二三道焉。

罷り至りて二十二年、三道を得てこれを測る。
三道候補とする三路線。

日 入山 日 中尾山 日 和見嶺。

日わく入山 日わく中尾山 日わく和見の嶺なり。
それぞれの地名。

入山工費少而地勢峻。和見工費鉅而地勢夷。

入山は工費少きも地勢峻なり。和見は工費鉅なるも地勢夷なり。

鉅鉅。夷平らで低いこと。

中尾地勢工費俱居二者之中而路程尤近。

中尾は地勢工費俱に二者の中に居てしかも路程尤も近し。
特になし。

因更精覈審測、較其利害得失、遂定爲中尾。

よりて更に精覈審測し、その利害得失を較べ、ついに中尾に為すと定む。
精覈詳しく調べ明らかにすること。審測詳しく測ること。

横川至輕井澤一長七哩、中央曰熊平一置停車場。

横川より輕井沢に至る長サ七マイル、中央に熊ノ平と曰う停車場を置く。
特になし。

もつて
以二十四年六月一起功、至明年十二月而竣。

二十四年六月を以て起功し、明年十二月に至りて竣す。
起功||起工。竣||竣工。

隧道 凡二十六其長合一萬四千六百四十四呎餘。

隧道およそ二十六その長さ合わせて一万四千六百四十四呎餘り。
隧道||トンネル。

哩 呎 皆英國里法。

マイル フイート 皆英國の里法なり。

里法||距離の単位(一里などという)。

哩 當ニ我十四町四十五間餘 呎 曲一尺餘

マイルは我十四町四十五間餘り フイートは曲一尺餘りに当たる。

我||我が国。曲||曲尺(かねじゃく)。マイル||1.609km。フイート||30.48cm。

橋 十八架、確日者ニ最鉅一有三橋

橋は十八を架け、確日で最鉅の者に三橋あり。

最鉅||最大。三橋||確氷第三橋梁(通称がね橋)。

柱 疊ハたミテせんヲつくりこれヲ 形 如ハニ斗 拱キョウ一。

柱は甄センを畳たたみてこれを作り、形は斗拱トウキョウの如し。

疊タテ|| 畳み重ねるさま。甄セン|| 煉瓦（レンガ）の意。斗拱トウキョウ|| 漏斗（ジョウゴ）の形をした橋脚（アーチ橋）。

相距アイヘ 各 六十 呎、橋上 至 川底 高 百十 呎。
（アイヘテルおのおのハ フイート 六十五 橋上ヨリいたル 至ニ川底ニ高サハ 百十 フイート）

相距アイヘてる各おのおのは六十フイート、橋上より川底に至る高さは百十フイート。

相距アイヘてる|| 橋脚間の距離。

長虹 一带翼然 曳影乎。
（チョウコウ 一帯翼然 曳影乎）

長虹チョウコウ 一带翼然よくぜんとして影ひを曳ひくや。

長虹|| 長い虹がかかったようなさま。翼然|| つばさのように左右にひろがっているさま。

碧流 嶋巖之上 洵偉觀也。
（ヘキリウ 嶋巖之上 洵偉觀也）

碧流ヘキリウ嶋巖シマインの上洵じょう偉觀いかんなり。

碧流|| 青緑色の流れ。嶋巖|| 切り立った険しい崖。上洵|| 「まことに」の意。

二十六年一月二十二日 始試通一。車用阿武止氏機關車一。
（ニジュウニシツネン 一ツキ 一ニヒ 始試通一。車用阿武止氏機關車一）

二十六年一月二十二日試通しつうを始はじむ。車くるまはアプト氏あぷとし機關車きかんしゃを用もちう。
（ニジュウニシツネン 一ツキ 一ニヒ 試通を始む。車はアプト氏機關車を用う）

特になし。

阿武止獨逸人。嘗開鐵道於獨國波鬪山、地勢峻急、因創製此。

アプトはドイツ人なり。かつて鐵道をドイツ國ハルツ山に開くに、地勢峻急によりてこれを創製す。
アプト＝スイス？の技師ローマン・アプト。波鬪＝ハルツ Harz 山地の漢字あて。

へだタルコトヲわザカニはち
距ニ 今一僅 八九年、海外諸邦其用 未レ廣云。

今を距たること僅に八九年、海外諸邦それを用うること未だ広からずと云う。

海外諸邦＝海外諸國。未レ再読文字「いまダ・・・」と読む。

工費 凡二百萬、技師本間英一郎、董役技師吉川三次郎 渡邊信四郎 分ニ督其工。

工費およそ二百萬、技師本間英一郎、董役技師 吉川三次郎 渡邊信四郎 その工を分督す。

董役＝重役（技師の次席）。工＝工区。分督＝工区を分けて監督する。

技手 井上清介 佐藤古三郎 林通友 等 助レ之。

技手 井上清介 佐藤古三郎 林通友等 これを助く。

助く＝助監督。

我邦 設ニ 鐵道於 峻阪、是爲ニ 嚆矢一焉

わがくにノモウクルコトヲ
我邦の鐵道を峻阪に設くること、これ嚆矢と為れり。

峻阪＝険しい坂。嚆矢＝物事のはじまり＝最初。

鳴呼 確日嶺奇險天造而爲坦途。

あゝ確日の嶺奇險を天造りしも坦途と爲さん。
奇險 奇怪で険しい。坦途 平坦な道。

天下之阻莫所下往而不上可鑿一開也。

天下の阻往きて鑿開すべからざる所なしや。
鑿開 切り開く 開削。

頃者 輕井澤人 佐藤萬平 小川勇二等 將勒其偉功、

頃の者に輕井澤人 佐藤萬平 小川勇二等 將にその偉功を勒さんとし、
頃 其の頃。將 再読文字 「まさニ・・す」と読む。勒 碑文を刻むこと。

以傳ニ不朽、介ニ川上陸軍中將一詣レ予請レ文。

以て不朽に伝んと、川上陸軍中將を介して予に詣で文を請う。
詣 参る。予 私。請 請けてくれるようにとの依頼。

予善レ此、工事之爲ニ全國標準一而嘉ニ一惠 斯民一尤大也 不二敢辭一。

予これを善しとし、工事の全國標準と爲るは斯民を嘉惠すること尤も大なりと敢えて辭さず。
嘉惠 めでたい恵み。斯民 此の分野の人々。不敢辭 敢えて断らない。

かかワルこれニもつテジヲ
係レ之以レ辭曰

これに係る辞を以て曰わく

日本武尊（やまとたける）の伝説引用。 〓たけるが東国を平定し、四阿嶺（群馬・長野県境の鳥居峠）に立ち、そこから東国を望んで弟橘姫（おとたちばなひめ）を思い出し、「吾妻はや」（わが妻よ…）と三度嘆いた。そこから東国をあづま（東・吾妻）と呼ぶようになったと言う故事。

「思ニ―慕 吾 婦一兮 瞻 望 三 歎 昔 人 何 在 兮、」 遺 蹟 永 傳。

「吾が婦を思慕し 瞻望三歎 昔人 何くに在る」と、遺蹟永く伝う。

瞻望〓遠くを見渡すこと。三歎〓何度もなげくこと。昔人〓たけるの弟橘姫やその時代の人々。

重 險 依レ 舊 兮 攢レ 峯 刺レ 天 行 旅 側レ 足 兮。

重險旧により、峯を攢め天を刺し行旅足を側つ。

重險〓非常に険しい場所。依舊〓もとより。攢〓集める。行旅〓旅人。側足〓恐れて立ちすくむ。

徑 危 崖 懸、 維 關 維 啟 兮。 如レ 砥 如レ 矢、 往 來 源 源 兮。

徑危崖に懸かるを、これ開きこれ啓く。砥のごとく矢のごとく、往来源源たり。

徑〓徑（みち）。關〓開。啟〓啓。砥矢〓砥石のように滑らかで矢のように速い（中国古典「詩経・小雅」中の「大東」の一節『周道如砥 其直如矢』を引用）。源源〓次々と続くこと。

變レ 遐 爲レ 邇 武 尊 之 武 兮。 綏ニ 服 夷 鄙一 開 物 通レ 利 兮 百 世 嬋 美。

遐かを變じて邇じと為すは 武尊タケルの武ぶ。夷鄙いふを綏服すいふくするは 開物かいぶつの利りに通じ 百世ひやくせいに嬋すく美みる。
綏服すいふくニ夏王朝かの五服ごふくになぞらえて平易な法と道德を守ることのできる地域。開物かいぶつニ明時代みんの産業技術書。百世ニ永く。嬋美(pimai)ニ美を競う。ここでは「優る」の意。

明治廿六年四月 從四位勳四等文學博士重野安繹撰

明治二十六年四月 從四位勳四等文學博士重野安繹撰

重野安繹ニ薩摩藩の漢学者。

從五位長 長 芟 書 廣 羣 鶴 刻

從五位長 芟 書 廣羣鶴刻

長芟ニ長三州、豊後国生まれの書家。廣羣鶴ニ谷中の御碑銘彫刻師（おひめいちようこくし 実名ニ廣瀬群鶴）。